

夢を追う卒業生 その18 平成30年11月15日

慶応義塾體育會柔道部

◇今回は、久野倫平さん（慶応義塾大学理工学部）のレポートです！

慶応義塾大学理工学部一年の久野倫平です。まだ大学生になって半年ですが、私が大学生活で感じたこと経験したことをいま私の大学生活の多くを占めている部活を通して紹介したいと思います。

私は慶応義塾體育會柔道部に所属しています。慶応義塾體育會柔道部は歴史の古い部活で日本最古の柔道部と言われています。慶応義塾體育會柔道部はただ強くなることが目的ではなく、柔道を通じて慶応義塾の真の目的である「気品の泉源、知徳の模範」を実践し「全社会的先駆者」たる人間になることを目標として活動しています。

現在慶応義塾體育會柔道部には40人を超える部員が在籍しており、週6回練習しています。その部員は、全国大会上位入賞者から初心者まで、加えて国家公務員志望者の学生など多種多様な人材が在籍しており、これも慶応義塾體育會柔道部ならではの事だと思えます。また慶応義塾體育會柔道部の特徴としては、タテの繋がりがあります。普段から幼稚舎の生徒や偉大な先輩方まで、本来交流できないような人々と交流があり、「社中協力」という慶応義塾の精神が受け継がれています。こうした多種多様な人材と仲間となり、その中で揉まれていくことで人間としても成長することができます。こうした環境があるの慶応義塾體育會柔道部だけではなく慶応義塾體育會のすべての部活に言えることです。これは他大学にはない慶応義塾體育會の素晴らしいところで大切にしているところです。



慶応義塾體育會柔道部は国際交流の機会が多くあります。まず、慶応義塾體育會柔道部には外国人のコーチがいます。その関係や慶応義塾大学が海外によく知られていることもあり、海外の強化チームが練習に来たり、柔道をしている留学生が来たりします。一緒に練習をしたり、一緒にご飯を食べたりして交流を深めています。また、ニューカレドニア遠征やイタリア遠征やモナコ遠征があります。遠征先の大会に参加したり、遠征先の道場の練習に参加したりしています。こういった海外遠征を通して国



際交流ができます。また、先日にはブラジルからブラジリアン柔術の選手がきて一緒に練習しました。また、そのブラジル人にブラジリアン柔術の関節技の講習会もしていただきました。こうした交流を通して他の国の人の柔道に対する考え方や取り組み方を肌で感じることができました。このように慶応義塾体育會柔道部は国際交流を大事にしています。

私たちは月に一回、RIZINにも出場している総合格闘技の選手に寝技を教してもらってます。柔道の寝技と総合格闘技のグラップリングは似ているところも違うところもあります。総合格闘技のグラップリングの動きには柔道にはない動きがあり、その総合格闘技のグラップリングを柔道に取り入れるためにやっています。また、アームレスリングも体験しました。アームレスリングは一瞬で力を入れ、一瞬で勝負が決まるスポーツです。アームレスリングの選手から体の使い方や一瞬で力を入れる方法を教してもらいました。また、実際に体験することで今までしてきた腕相撲とはレベルの違うアームレスリングをすることができました。アームレスリングの女子の選手と柔道の100キロ超級の選手が勝負し、女子の選手が勝ったことに驚きました。また、ダンサーを呼んでダンスのトレーニングも取り入れています。柔道には体の力を抜くトレーニングはありません。しかし、体の力を抜くことは柔道にも必要な動きなので体の力を抜く動きがあるダンスをトレーニングに入れています。また、ダンスをすることで、フットワークがよくなったり、リズム感が身につくなどこれも柔道にプラスになるのではないかと考えています。このように慶応義塾体育會柔道部では、ただ柔道だけをやるのではなく柔道をいろんな面から見て、考えて、いろんなことを柔道に取り入れているようにしています。また、この取り組みのおかげで様々な競技に触れることができ、様々な競技の人と交流することができます。



私はこの半年間の大学生活で色々な人との出会いがあり、そこから人との繋がり大切さを感じ学ぶことができました。大学ではいろんな経験ができ、色々な人と関わることができます。私は大学は人との繋がりを築き、人との関係を広げていく場だと考えています。大学での人との関りは様々で、その一瞬だけの関りの人もいればこれからずっと関わっていく人もいますが、私はどの出会いも大事だと思います。私は色々な人と出会い、関わることで色々な人のことを知ることができたし、人それぞれ違う価値観や考え方を知ることができました。またそれを知ることで自分を見つめ直すいい機会となり、自分を知ることができ、新たな目標ができました。関わる人はその大学や学部、入る部活、サークルで人それぞれ違ってきますが、そこでの人との繋がりを大事にしてほしいと思います。

